

第2学年 国語科学習指導案

1. 単元名 ようすを考えて読もう「お手紙」

2. 指導観

- 本学級の子どもたちは、1学期の「スイミー」の学習で、時と場所を表す言葉をとらえ、スイミーがしたことをもとにあらすじをまとめることができるようになってきている。また、さし絵と言葉をつないでスイミーの行動のわけを考えたり、言葉を比べたり、場面を比べたりすることで、様子や気持ちを読み取ることもできるようになってきている。しかし、どのような読み方を用いるとよいのか、自分で見付けることはなかなか難しい実態がある。

言語活動としては、1学期の「ふきのとう」の学習で読み取ったことをもとに、簡単な劇活動を行ってきている。

- 本教材は、誰からもお手紙をもらったことがないがまくんが悲しい気分でお手紙を待っているのを見て、なんとか励まそうとするかえるくんと最後には自分のことを思ってくれている親友がいたことに気付くがまくんの姿が書かれた心温まる話である。

本教材は、全体が5つの場面で構成されており、それに対応したさし絵も載せられているので、それらを手がかりにあらすじをまとめることができる教材である。がまくんとかえるくんの会話文を中心に話が展開されており、音読を取り入れて、たたみかけるような表現や会話文に着目させたり、「見ました」「のぞきました」のような似た言葉と比べて読んだりすることで、登場人物の様子や気持ちをとらえることができる教材である。

本単元では、「お手紙」を読んだ後、他のがまくん・かえるくんシリーズも読んであらすじをとらえ、それぞれのお話で二人はどんな親友なのか紹介し合う言語活動を仕組む。これは、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域とを関連させ、学習指導要領の1, 2年「読むこと」にある「読んだ本について、好きなところを紹介する」言語活動例の具体化につながると考える。

- 指導にあたっては、まず、題名と冒頭から「かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんが、これからどうなるお話だろう。」という読みのめあてをつくる。題名「お手紙」の「お」に着目させたり、冒頭でさし絵も用いながら登場人物や場面設定をとらえさせたりして、読みのめあてを生み出していきたい。

次に、全文を読み、読みのめあての答えを導き出す。主語に着目してがまくんとかえるくんのしたことを探し、読みのめあての答えを書きまとめていくようにする。書きまとめた読みのめあての答えから、がまくんとかえるくんのしたことのわけを考えるような疑問を考え、場面ごとに詳しく読む視点をつくっていくようにする。

そして、詳しく読む視点に沿って、場面ごとにがまくんとかえるくんの様子や気持ちを読み取っていく。似た言葉と比べて読む読み方や場面と場面をつないで読む読み方、動作化などを使って、がまくんのことを思って励ますかえるくんと、お手紙が来なくて落ち込んでいたものの、最後にはかえるくんがお手紙を書いてくれたことを知りうれしく思うがまくんの様子や気持ちを考えさせていきたい。

読みのまとめと読み方のまとめをした後、がまくん・かえるくんシリーズの他の話を見せ、「他のお話の中では二人はどんな『親友』なのか読んでみよう」という活動提案をし、言語活動へと誘う。がまくん・かえるくんシリーズの他のお話を読んで、それぞれのお話の中で二人はどんな親友なのか紹介し合う言語活動では、「お手紙」の学習で身に付いたあらすじをとらえる力や、必要な事柄を書きまとめ、順序立てて話したり聞いたりする力が求められる。この活動では、紹介に必要な事柄を集めたり、紹介するための簡単な構成を考えたりする「書くこと」の指導事項と、紹介する中身について、話す事柄を順序立てて話す「話すこと・聞くこと」の指導事項との関連を図っていくようにする。また、この言語活動で身に付いた力は、生活科「いねをそだてよう」の単元の、お米を育てていくときに自分が気付いたことを紹介する活動の中で、紹介に必要な事柄をまとめ、順序立てて話す際に生かしていきたいと考える。

3. 単元の目標

- かえるくんとがまくんの会話や行動をもとに、したことを順序よくとらえ、さし絵や叙述の違いから読み取った二人の様子や気持ちを付け加えて、あらすじとしてまとめることができる。
- 教科書教材「お手紙」や他のがまくんかえるくんシリーズのお話を比べて読み、がまくんとかえるくんがお互いのことを思う様子や気持ちをとらえ、「親友」に対する見方・考え方を深めることができる。

4. 単元構想図

【目標】
 ○ かえるくんとがまくんの会話や行動をもとに、したことを順序よくとらえ、挿し絵や叙述の違いから読み取った二人の様子や気持ちを付け加えて、あらすじとしてまとめることができる。
 ○ 教科書教材「お手紙」や他のがまくんかえるくんシリーズのお話を比べて読み、がまくんとかえるくんがお互いのことを思う様子や気持ちをとらえ、「親友」に対する見方・考え方を深めることができる。

【言語活動例】 オ 読んだ本について、好きなところを紹介する。

① 題名と冒頭から読みのめあてをつくる。

- 登場人物をつかむ。
- さし絵や会話文を読む。

【読み通しの目】
 かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんが、これからどうなるお話だろう。

書くこと
 ・語と語、文と文との続き方に注意しながらあらすじを書きまとめること。

② 人物、時、場所に注目して全文を読み、読みのめあての答えをまとめる。

- 人物、時、場所に注目して全文を読む。
- かえるくんとがまくんが主語になっている文に着目する。
- 主語を補って考える。

話すこと・聞くこと
 ・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
 ・話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話すこと。
 ・大事なことを落とさないようにしながら、友達の読み取りに興味をもって聞くこと。
 ・集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

③ かえるくんとがまくんの様子や気持ちについて、さし絵や叙述の違いから想像を広げて読み取る。

- さし絵と言葉をつないで読む。
- 会話文を読む。
- 似た言葉と比べて読む。
- 語句の類別する。
- 場面と場面の空所を読む。
- 場面と場面をつなぐ。

④ 読みのまとめと読み方のまとめをする。

- がまくんとかえるくんがしたことの様子や気持ちを付け加えて、主述がねじれないようにあらすじとしてまとめる。
- 「お手紙」で学習した読み方を、読み取った内容と共に振り返る。

書くこと
 ・語と語、文と文との続き方に注意しながらあらすじを書きまとめること。

⑤ がまくんとかえるくんシリーズの他のお話を読んで、それぞれのお話で二人はどんな親友なのか紹介し合う。

- 「お手紙」のがまくん、かえるくんと他のお話でのがまくんとかえるくんのしたことを比べて読む。
- 自分が読んだお話について、あらすじと共に「お手紙」と比べながら親友という視点で読み取ったことを紹介し合う。

書くこと
 ・紹介に必要な事柄を集めること。
 ・紹介するための簡単な構成を考えること。

話すこと・聞くこと
 ・紹介する中身について、話す事柄を順序立てて話すこと。

【生活科】
 いねを
 そだてよう

1学期に植えた稲の育ち具合を観察しよう。これからどんなお世話が必要かな。

米がすずめに食べられているよ。

かかしを作って追いはらおう。

立派に実った稲を刈り取って、収穫しよう。

お米の収穫祭をしよう。

稲の育て方を教えてくれた方に、自分たちが苦勞したことやがんばったことを紹介しよう。

お世話になった方に、お礼の手紙を書こう。

5. 学習計画 (全16時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点
1 / 16	<p>1 題名から分かること, 思ったことを話し合う。</p> <p>2 冒頭を読んで, 分かること, 思ったことを話し合う。</p> <p>3 「ふたりともかなしい気分」に着目し, 読みのめあてを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>読みのめあて かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんが, これからどうなるお話だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お手紙についての自分の経験を出させる。(だれに, どんなお手紙をもらったり, あげたりしたか。そのときの気持ちはどうだったか。) ○ 手紙に「お」がついていることに着目し, 大切なことが書いてありそうだというをとらえさせる。 ○ 「ふたりとも」に着目し, がまくんとかえるくん, それぞれのかなしい気分がなぜかを挿絵とつないで考えさせる。 ○ 挿絵を見る視点を確認する。(目, 口, 視線, 表情, 肩, 背中) ○ お話がこれからどうなるかという展開に興味を持たせて読みのめあてを作る。
16	<p>1 全文を読み, 難語句を理解する。</p> <p>2 (1) 1~4場面の構成をとらえる。 ・ (2) すらすら読めるように音読する。 3 (3) 意味がわからない言葉を理解する。 ・</p> <p>4 2 挿絵をもとに, がまくんとかえるくんがしたことをとらえ, お話の順序をつかむ。</p> <p>3 読みのめあての答えを書きまとめる。 予想される読みのめあての答え (予見)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>かえるくんは, 大いそぎで帰ってがまくんへお手紙を書いた。そして, そのお手紙をかたつむりくんにたのんだ。それから, かえるくんは, がまくんの家へもどった。がまくんはあきらめてお昼ねをしていたので, かえるくんはゆうびんうけを見たり, のぞいたりしてお手紙が来るのをまった。でも, お手紙がなかなか来なかったので, がまくんに自分がお手紙を書いたことを話した。ふたりは, とてもしあわせな気持ちで, お手紙が来るのをまった。四日たって, かたつむりくんが家につき, お手紙をがまくんにわたし, がまくんはとてもよろこんだお話。 (253字)</p> </div> <p>4 読みのめあての答えを話し合う。</p> <p>5 自分の書いた読みのめあての答えを見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人物・時・場所を押さえながら, 全文を読み通させる。 ○ 姿勢や口形, 声の大きさや速さに気をつけて, 正しく読むことができるように練習させる。 ○ 「ふしあわせ」「親愛なる」「親友」「四日たって」を補足説明し, 語彙を理解させる。 ○ 冒頭挿絵②と挿絵⑨を比べさせることで, お話の始めと終わりとらえさせる。 ○ 8枚の挿絵を順序よく並べ, お話の順序をとらえさせる。 ○ 挿絵と, かえるくんがしたことを中心に読み通しの目の答えを書きまとめさせる。 ○ 机間指導では, 支援を必要とする子への助言を中心に個別にあたるようにする。 ○ 「最初と最後を入れる」「主人公のしたことの文に線を引いて見つける」「他の人物のしたことを見つける」「挿絵に合わせて大事な文を選ぶ」「会話文・修飾語は省く」「2文を1文にする」「常体を使う」ということに注意させながらあらすじを書きまとめさせる。 ○ 全員の児童が書いた答えに目を通し, 8枚の挿絵に対応させて, したことをいくつ, どのように書いているかを把握しておく。その中から, 場面が抜けていたり読みが不足したりしている児童や, 全体の傾向をとらえて話し合いの展開と指名計画を立てておく。 ○ 代表児の発表をもとに, どこがちがうかを聞きとらせながら話の筋として必要ながまくん, かえるくんのしたことを場面の順に整理する。 ○ 自分の書いた読み通しの目の答えの足りなかった点に気付かせ, 見直しをさせる。 ○ 「挿絵と言葉をつないで自分の言葉で書く」「いくつかのしたことをまとめて書く」ことに気を付けさせて, あらすじを書き直させる。
5 / 16	<p>1 学習計画をたてる。</p> <p>(1) がまくん, かえるくんのしたこととそのわけ, 気持ちでもっとくわしく知りたいことや疑問に思うことを場面ごとに整理し, 読み確かめていく計画をたてる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体で方向づけたあらすじを音読し, 確かめて, がまくんとかえるくんの言動でもっと知りたいこと, はっきりしないことを疑問として出す。それを, 場面ごとに位置づけて読み確かめの計画を立てていく。

	<p>読み確かめること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎで家に帰ってお手紙を書き、またもどるまでのかえるくんの様子や気持ち。 ・まどから見たりのぞいたりするかえるくんの様子や気持ち。 ・お手紙のことを話したかえるくと、それを知ったがまくんの気持ち。 ・とてもしあわせな二人の様子や気持ち ・四日間の二人の様子や、お手紙がとどいたときの、がまくんとかえるくんの気持ち。 	<p>○ 読み確かめの学習では、読み取ったがまくんとかえるくんの様子や気持ちをくわしくして、家の人に知らせる手紙を書いていくことを確かめ、意欲づける。</p>
6 / 16	<p>1 大いそぎで家に帰ってお手紙を書き、またもどるまでのかえるくんの様子や気持ちを読み確かめ、お話をくわしくすることを 知る。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。 (2) 視写をする。</p> <p>2 考えをもとに話し合う。</p> <p>(1) 大いそぎで家に帰ってお手紙を書き、家からとび出すかえるくんの様子や気持ちを話し合う。 (2) お手紙をかたつむりくんに頼んだわけを話し合う。</p> <p>3 本時で学んだ読み方を確認し、読み確かめたことを家の人への手紙として書きまとめる。</p>	<p>○ 場面と場面をつなぐ読み方を使って、かえるくんが急ぐわけを考えさせることによって、がまくんを早く喜ばせたいという気持ちをとらえさせる。</p> <p>○ 「何か書きました。」という叙述をもとに、自分が手紙を書いた経験と比べて、早くがまくんを喜ばせたいというかえるくんの思いを読み取らせる。 発表前の指示や問い返して、友達の発表をちがいを 見つけながら聞くことができるようにする。</p> <p>○ にた言葉と比べて読む読み方を使って、「とび出しました」とにた言葉の「出ました」と比べることによって、かえるくんが急いでいる様子を読み取らせる。</p> <p>主述の関係や事柄の順序に注意して、書きまとめさせる。家の人へ伝える話型に書きまとめさせる。</p>
7 / 16	<p>1 まどから見たりのぞいたりするかえるくんの様子や気持ちを読み、お話をくわしくすることを 知る。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。 (2) 視写をする。</p> <p>2 がまくんとかえるくんになって役割読みをし、様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 本時で学んだ読み方を確認し、読み確かめたことを家の人への手紙として書きまとめる。</p>	<p>○ 会話を読む読み方を使って、がまくんのあきらめている様子やかえるくんのがまくんを思う一生懸命な様子や気持ちを読み取らせる。</p> <p>○ 自分が、かえるくんだったらどうするか考えさせることにより、かえるくんのがまくんに対する思いを読み取らせる。 発表前の指示や問い返して、友達の発表をちがいを 見つけながら聞くことができるようにする。 主述の関係や事柄の順序に注意して、書きまとめさせる。家の人へ伝える話型に書きまとめさせる。</p>
8 / 16	<p>1 お手紙のことを話したかえるくとそれを聞いたがまくんの様子や気持ちを読み、お話をくわしくすることを 知る。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。 (2) 視写をする。</p> <p>2 お手紙のことを話したかえるくとそれを聞いたがまくんの気持ちを話し合う。</p> <p>3 本時で学んだ読み方を確認し、読み確かめたことを家の人への手紙として書きまとめる。</p>	<p>○ 場面と場面をつないで読んで、かえるくんがお手紙を書いたことを言ってしまったわけをとらえさせる。</p> <p>○ 挿絵と言葉をつないで読んで、お手紙のことを聞いたときのがまくんの気持ちをとらえさせる。</p> <p>○ 「とてもいいお手紙だ。」で、がまくんはお手紙の中の何がいいと言っているのか考えさせ、「親友」と書かれたことである点を確認する。</p> <p>○ 前時までの学習とつなぎ、かえるくんががまくんのためにした親友らしいことを想起させる。</p> <p>○ 自分の生活とつなげて読んで、自分がとらえている「親友」と、かえるくんの行動や思いから読み取れる「親友」を比べることによって、「親友」に対する見方・考え方を広げたり深めたりさせる。 発表前の指示や問い返して、友達の発表をちがいを 見つけながら聞くことができるようにする。</p>

	める。	主述の関係や事柄の順序に注意して、書きまとめさせる。家の人へ伝える話型に書きまとめさせる。
9 / 16	1 とてもしあわせな二人の様子や気持ちを読み、お話をくわしくすることを 知る。 (1) 本時場面を音読する。 (2) 視写をする。 2 とてもしあわせな二人の様子や気持ちを話し合う。 3 本時で学んだ読み方を確認し、読み確かめたことを家の人への手紙として書きまとめる。	○ 挿絵と言葉をつないで読んで、かえるくんとがまくんの気持ちを読み取らせる。 ○ まだ、お手紙が届いていないのに二人ともしあわせな気持ちになったわけを読み取らせる。 ○ 今までの自分たちの「しあわせ」に感じた経験とがまくんやかえるくんの「しあわせ」とを比べることによって、「しあわせ」に対する見方・考え方を広げたり深めたりさせる。 ○ 場面と場面をくらべる読み方を使って、最初の挿絵と比べることにより、がまくんとかえるくんの様子の違いに目を向け、二人ともしあわせな気持ちになったことを読み取らせる。 ○ 自分の生活とつなげて読んで、自分がとらえている「しあわせ」と、がまくんとかえるくんの様子から読み取れる「しあわせ」を比べることで、「しあわせ」に対する見方・考え方を広げたり深めたりさせる。 発表前の指示や問い返して、友達の発表をちがいを 見つけながら聞くことができるようにする。 主述の関係や事柄の順序に注意して、書きまとめさせる。家の人へ伝える話型に書きまとめさせる。
10 / 16	1 四日間お手紙を待っている二人の様子と気持ちを読み、お話をくわしくすることを 知る。 (1) 本時場面を音読する。 (2) 視写をする。 2 四日間お手紙を待っている二人の様子と気持ちを話し合う。 3 本時で学んだ読み方を確認し、読み確かめたことを家の人への手紙として書きまとめる。	○ 場面と場面のあいだを、挿絵とつなげて想像しながら読ませ、お手紙を待っている間の二人の様子や気持ちを読み取らせる。 発表前の指示や問い返して、友達の発表をちがいを 見つけながら聞くことができるようにする。 主述の関係や事柄の順序に注意して、書きまとめさせる。家の人へ伝える話型に書きまとめさせる。
11 / 16	1 読みをまとめる。 (1) 題名にもどり、「お手紙」の果たした役目を振り返る。 (2) 読み確かめてきたことを付け加えて、くわしくなったお話を一年生への手紙として書きまとめることを知る。 2 活用した読み方を確認し、くわしくなったことを一年生への手紙として書きまとめる。	○ 題名にかえて、お手紙の果たした役目を今まで書きまとめた内容とつないで考えるようにする。 ○ 挿絵を見て、毎時間読み確かめてきたことを想起させ書きまとめさせる。 発表前の指示や問い返して、友達の発表をちがいを 見つけながら聞くことができるようにする。 主述の関係や事柄の順序に注意して、書きまとめさせる。一年生へ伝える話型に書きまとめさせる。
12 / 16	1 お手紙を学習して「親友」についての自分の見方考え方を書く。 2 教師のブックトークを聞く。	○ 学習を振り返って、がまくんとかえるくんの関係から考える「親友」についてまとめさせ、自分の生活においても考えさせる。 ○ ふたりは〇〇シリーズで他にもたくさん話があることを紹介し、読み聞かせをして興味を持たせる。二人の間の何かをしてあげる方向性が逆の「ひとりきり」を含めていくつかを紹介する。 ○ 他作品を読む期間を2～3日取るように知らせる。

13 / 16	1 「おちば」「ぼうし」「ひとりきり」の中から紹介する話を選んで読む。	<p>「は」「が」「も」に気を付けて、主述の関係に注意して読ませる。</p> <p>○ 次時にあらすじをまとめることを意識して、読ませる。</p>
14 / 16	1 自分が選んだ話についてあらすじを書きまとめることを知る。 2 あらすじを書きまとめる。	<p>「は」「が」「も」に気を付けて、主述の関係に注意して読んだり書いたりさせる。 モデル文を提示し、紹介に必要な事柄を選び、始め・中・終わりの簡単な文章構成を考えて書きまとめる。</p> <p>○ はじめ・中・おわりを意識してまとめられるように、3枚のカードに書きまとめさせる。 ○ 「誰が誰のために何をするのか」という形式で全体のあらすじをまとめさせる。</p>
15 / 16	1 グループ発表会の練習をすることを知る。 2 お話紹介の練習をする。 3 次時の流れを知り、発表意欲を持つ。	<p>○ 次時が発表会であることを予告する。</p> <p>発表の場を意識させて、敬体で話させる。紹介する際は、接続語でつないで、順序立てて話させる。</p> <p>○ クラスの友だちに、班で発表することを意識させ、声の大きさや速さ、カードの持ち方に気をつけさせる。</p>
16 / 16 (本時)	1 「お手紙」と「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」を比べて読んで、似ているところや違うところを確かめることを知る。 2 話を紹介し合う。 3 内容確かめて相違点について話し合う。 4 「お手紙」と「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」を比べて読んだ相違点について書きまとめる。	<p>○ 「お手紙」と比べることを意識させる。</p> <p>モデル文を提示して、発表に対して尋ねたり応答したり話し合うことができるようにする。</p> <p>○ 「〇〇が△△のために～をしてあげた」と働きかけの方向を全体で確認する。 ○ 「お手紙」とどう違ったのか、働きかけの方向性の相違点で書きまとめるように指示する。</p>

6. 本時の目標 (16 / 16)

- 主語と述語の関係を正しく捉え、それぞれのお話が「〇〇が△△のために～をしてあげた」お話しということ捉えることができる。
- がまくんかえるくんシリーズの複数のお話を比べて読むことで、登場人物がしたことの違いをとらえ、親友の見方・考え方を深めることができる。
- お話の紹介の簡単な構成を考えてははじめ、中、おわりと順序立てて話したり、話に添って聞き直したりすることができる。

7. 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、「お手紙」からがまくんのことを自分のことのように思うかえるくんの様子や気持ちを読み取り、親友とは相手の事も自分の事のように大切に思える存在だということを通して。その際、読み深めの時間には、毎回「〇〇が△△のために～してあげたお話しだよ。それはね、がまくんが～だから、かえるくんが～しようと思ったからだよ。」と書きまとめた。そして、がまくんとかえるくんシリーズの「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」の一つを選び、紹介カードのモデルを参考に、紹介に必要な事柄を集めたり、簡単な構成を考えたりして、紹介カードを書いてきた。

本時は、「お手紙」と「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」を比べて読んで、親友の見方・考え方を深める場面である。

そこで、本時の指導にあたっては、まず、グループ内で、選んだ話の「〇〇が△△のために～をしてあげた」を紹介し合うことで、三つのお話のあらすじを捉えさせる。この時に、話すこと・聞くことの指導事項との関連を図り、紹介カードを掲示しながら説明させることで、はじめ、中、おわりと順序立てて話すことができるようにしたい。また、モデルを示すことで、話す時に丁寧な言葉遣いや姿勢、口形、声の大きさ、速さに気をつけさせたり、聞く時にあいづちを打ったり、話に添って聞き直したりするようにしたい。その際、質問をすることで話の内容がよりわかるようになることを感じさせたい。

次に、全体で三つのお話のあらすじと働きかけの方向を確かめさせる。このときに、板書の矢印を使って、かえるくんからがまくん、がまくんからかえるくん、お互いの三つのパターンの働きかけがあることに気付かせたい。

最後に、お手紙と三つのお話を比べ、親友とは、相手が困ったときに助けてあげようと、お互いがいつも思い合っているのだということを感じ取らせたい。そして、「お手紙」のかえるくんの手紙の内容を想起させ、どうしてかえるくんががまくんのことを親友と書いていたのかを確認して親友の見方・考え方を深めさせたい。

8. 板書計画

<p>今日の学習で</p> <p>かえるくんとがまくんが「親友」だとよくわかったよ。それはね、お手紙は、かえるくんががまくんのためにお手紙を書いてあげていたけど、ほかのお話では、がまくんがかえるくんのためにサンドイッチを作ったり、おたがいにそうじをしてあげたりしていたんだよ。</p>	<p>ひとりきり</p>	<p>お手紙</p>	<p>ようすを考えて読もう お手紙 めあて アーノルドローベル</p> <p>「お手紙」と「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」をくらべて読んで、にているところやちがうところをたしかめよう。</p>
	<p>おちば</p>	<p>ぼうし</p>	

9. 本時の展開 (16 / 16)

学習活動と内容	指導上の留意点 (※は他の領域との内容の関連)
<p>1 前時を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>本時のめあて 「お手紙」と「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」をくらべて読んで、にているところやちがうところをたしかめよう。</p>	<p>○ 前時までの掲示物や紹介カードをもとに前時の学習を想起させ、本時のめあてを確かめる。</p>
<p>2 グループ内で、「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」のあらすじと内容を紹介し合う。 「〇〇が△△のために～をしてあげた」</p> <p>3 全体で、「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」を比べて、似ているところや違うところを確かめる。 (1) お話ごとに内容を確かめる。 ○あらすじ 「〇〇が△△のために～をしてあげた」 ○はたらきかけ 「ぼうし」 かえるくん→がまくん 「ひとりきり」 かえるくん←がまくん 「おちば」 かえるくん←がまくん</p> <p>(2) 「お手紙」と「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」とを比べ、親友とは何かを話し合う。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>今日の学習で かえるくんとがまくんが「親友」だとよくわかったよ。それはね、お手紙は、かえるくんががまくんのためにお手紙を書いてあげていたけど、ほかのお話では、がまくんがかえるくんのためにサンドイッチを作ったり、おたがいにそうじをしてあげたりしていたからだよ。</p>	<p>○ それぞれのお話の紹介を聞くことができるように、「ぼうし」「ひとりきり」「おちば」を選んだ三人グループを作っておく。 ※ 前時までに書いた紹介カードを掲示しながら説明させることで、はじめ、中、おわりと順序立てて話すことができるようにする。 ※ 丁寧な言葉を用いる場面であることを確認する。 ※ モデル提示や掲示物で、姿勢や口形、声の大きさや速さに気をつけて話したり、あいづちを打ったり話に添って聞き直したりしながら聞いたりすることを確認する。</p> <p>○ それぞれの話の、「〇〇が△△のために～をしてあげた」と働きかけの方向を全体で確認させる。</p> <p>○ がまくんとかえるくんのはたらきかけの方向がわかりやすいように、板書に矢印を使って示したり、顔の挿絵を貼ったりする。</p> <p>○ お手紙で読み取った、がまくんに対するかえるくんの働きかけと同じように、がまくんもかえるくんに働きかけていることや、お互いに働きかけ合っていることから、親友の見方・考え方を深めるようにする。</p> <p>○ 「お手紙」のかえるくんのお手紙の内容を思い出させ、かえるくんがどうしてがまくんのことを親友と書いていたのか確認する。</p> <p>○ 本時のまとめとして「今日の学習で」に、深まった親友についての見方・考え方を書きまとめる。</p>